

小学校

平成 11 年 度

教育研究員研究報告書

道 徳

東京都教育委員会

平成11年度

教 育 研 究 員 名 簿

第1分科会

地区名	学校名	氏 名
目 黒	緑ヶ丘小	◎山田悦子
中 野	中野本郷小	□斎藤浩明
杉 並	八 成 小	明 星 麗

地区名	学校名	氏 名
立 川	西 砂 小	諸 井 明日香
狛 江	狛江第七小	渡 邊 和 美
あきる野	南秋留小	伊 藤 淑 子

第2分科会

地区名	学校名	氏 名
江 東	亀 島 小	服 部 志 信
大 田	大森第五小	○大 滝 さつき
渋 谷	広 尾 小	穴 澤 智恵子

地区名	学校名	氏 名
板 橋	常盤台小	深 野 義 法
府 中	小 柳 小	霜 田 晴 美
武蔵村山	第 十 小	□吉 行 一 敏

第3分科会

地区名	学校名	氏 名
品 川	第四日野小	久 保 雅 子
世 田 谷	給 田 小	□神 岡 弘 美
練 馬	高 松 小	齋 藤 馨

地区名	学校名	氏 名
足 立	舎 人 小	山 本 カ ヨ
町 田	南成瀬小	○町 野 恭 子
多 摩	東落合小	犀 川 幸 子

第4分科会

地区名	学校名	氏 名
港	芝 小	□太 郎 田 紀 子
墨 田	隅田第二小	本 田 好 美
豊 島	目 白 小	○小松原 知 司

地区名	学校名	氏 名
葛 飾	亀 青 小	豊 田 啓 孝
江 戸 川	鹿 骨 小	茂 木 洋 子
多 摩	大松台小	西 村 久 美 子

◎全体世話人 ○分科会世話人 □分科会副世話人

担当 教育庁指導部初等教育指導課指導主事 生 形 章

研究主題 一人一人の児童の心に響く道徳授業

目 次

◇ 研究主題について	2
◇ 研究の概要	3
I 自分らしさをたいせつにし、よりよく生きようとする心を育てる指導の工夫	4
1 分科会テーマ設定の理由	
2 児童の実態調査・分析	
3 「自分らしさを大切にし、よりよく生きようとする心」を育てる指導の工夫	
4 実践事例・考察	
II 互いに認め合い、よりよくかかわろうとする心を育てる指導の工夫	9
1 分科会テーマ設定の理由	
2 実態調査・分析	
3 様々な体験を生かした指導の工夫	
4 実践事例・考察	
III 生命を大切にすることを育てる指導の工夫	14
1 分科会テーマ設定の理由	
2 児童の実態調査・分析	
3 指導方法の工夫	
4 実践事例・考察	
IV 人との関わりを大切にし、郷土を愛する心を育てる指導の工夫	19
1 分科会テーマ設定の理由	
2 児童の実態調査・分析	
3 研究の視点と指導方法の工夫	
4 実践事例・考察	
◇ 研究の成果と今後の課題	24

研究主題設定の理由

「一人一人の児童の心に響く道徳授業」

○ 研究主題について

最近の子どもは、知識が豊富で、明るく率直なところがある反面、社会性の未発達、自律心の欠如、規範意識の低さと言った問題点も多い。そのため、子どもの言動に教師が驚いたり戸惑ったりすることが多々ある。また、学級での人間関係が原因で学級が荒れたり、いじめや不登校に発展したりすることもある。このような子どもの変化は、社会の急激な変化に対する子どもの反応であり、感情の表れではないかと考えられる。今、学校教育には、社会がいかに変化しようと、二十一世紀という将来を自分らしくたくましく生きぬいていく子どもたちを育てることが求められている。

平成八年の中央教育審議会第一次答申では、一人一人に生きる力を育てるための核となる豊かな人間性を育む教育の重要性が提言された。また、新学習指導要領でも人間らしい心を育てる道徳教育の充実、とりわけ子どもたち一人一人の心が動き、響き合う道徳の授業の工夫が強調されている。

しかしながら、道徳の授業の現状は形骸化、マンネリ化し、子どもたちの心に響かないものになっていると指摘されることも少なくない。そのため、道徳の授業を楽しくない・あまり楽しくないと感じている子どもたちの割合は、高学年になる程増えていく。その理由を子どもたちは、「いつも同じような授業だから」とか、「本当にこんなことがあるのか」等の授業の内容への不満として挙げている。だからこそ教師は、子どもたちの心の内面に響き、自らが自分なりの生き方を探求していけるような、道徳の授業の改善に努力していかなければならない。

そこで、道徳部会では、子ども一人一人の心に働きかけ、よりよい生き方を見つけられる自分、自信をもって生きていける自分に気づかせる授業を創造していこうと考え、主題を『一人一人の児童の心に響く道徳授業』と設定し、研究を進めていくことにした。特に、研究主題の「心に響く」とは、子どもが自分なりに自分自身を見つめ、考えることで、心が動き、将来をよりよく生きていこうと感じとれることととらえた。つまり、よりよく生きたいという人間が本来有する心を育てる授業を創造していくことで、子どもたちの心に響き、自立的な人間が育っていくと考えたのである。

このような考えの下、道徳の指導内容の4つの視点から分科会を構成し、次のように分科会毎の研究主題を設定し、各分科会ごとの視点を通して、研究主題に迫ることとした。

第1分科会「自分らしさを大切にし、よりよく生きようとする心を育てる指導の工夫」

第2分科会「互いに認め合い、よりよくかかわろうとする心を育てる指導の工夫」

第3分科会「生命を大切にする心を育てる指導の工夫」

第4分科会「人とのかかわりを大切にし、郷土を愛する心を育てる指導の工夫」

◇研究の概要

研究主題
一人一人の児童の心に響く道徳授業

第1分科会 (1の視点)	第2分科会 (2の視点)	第3分科会 (3の視点)	第4分科会 (4の視点)
<p>(目指す児童像) 新しい自分(今まで気付かなかつた自分、変容した自分)を発見しようとする児童</p> <p>(分科会主題) 自分らしさを大切にし、よりよく生きようとする心を育てる指導の工夫</p> <p>(仮説) 一人一人の児童が自分を深く見つけ、新しい自分を発見できるような確かな自己理解を図る指導を工夫することで、自分らしさを大切にし、よりよく生きようとする心を育てることができる。</p> <p>(指導の工夫) ◎確かな自己理解を図る指導の工夫 ①表現活動の工夫 ②身近な大人の参加を得る工夫 ③保護者の協力を得る工夫</p>	<p>(目指す児童像) 豊かな心を持ち、互いのよさや違いを認め合い、共に生きようとする児童</p> <p>(分科会主題) 互いに認め合い、よりよくかわかわろうとする心を育てる指導の工夫</p> <p>(仮説) 様々な体験を通して児童の心をやさふり、自ら考え、態度や行動に移せるような指導を工夫すれば、互いのよさや違いを認め、受け入れられることができ、よりよくかわかわろうとすることができる。</p> <p>(指導の工夫) ◎様々な体験を生かした指導の工夫 ①心に響く資料活用の工夫 ②自他の考えを尊重する話し合い活動の工夫 ③学習段階や事前・事後の指導の工夫</p>	<p>(目指す児童像) 生命の大切さを自覚し、その心を生活に生かしていきける児童</p> <p>(分科会主題) 生命を大切にすることを育てる指導の工夫</p> <p>(仮説) 体験活動を生かし、生命のかけがえのないことを実感できるような指導方法を工夫すれば、生命を大切にすることを育てることができる。</p> <p>(指導の工夫) ◎体験活動を生かす学習指導過程の在り方の工夫 ○体験活動を生かす指導計画の工夫 ○体験を引き出す資料・指導法の工夫</p>	<p>(目指す児童像) 郷土の人や文化などとふれ合い、自分の郷土に誇りを持ち、よりよく生きていこうとする児童</p> <p>(分科会主題) 人とのかわかわりを大切にし、郷土を愛する心を育てる指導の工夫</p> <p>(仮説) 郷土にかかわる体験を生かす指導方法を工夫すれば、自分の郷土に誇りを持ち、よりよく生きていこうとする心を育てることができる。</p> <p>(指導の工夫) ◎「体験」を生かす ①体験を振り返る活動の工夫 ②体験を生かした表現活動の工夫 ③授業の中に体験活動を取り入れる工夫 ◎「郷土」を生かす ④地域教材を生かす工夫 ⑤家庭や地域の力を生かす工夫</p>

検 証 授 業

総合的な評価(指導計画, 指導方法, 児童の変容)

I 自分らしさを大切にし、よりよく生きようとする心を育てる指導の工夫（第1分科会）

1 分科会テーマ設定の理由

「終わってから、どうしてももっとがんばれなかったんだらうというレースはしたくなかったし……。はじめて自分で自分をほめたいと思います。」

アトランタオリンピックの女子マラソンの有森裕子さんの言葉は、レース中の姿と共に今だに多くの人々の心に残っている。自分への肯定感を表したこの言葉は、がんばった自分に満足し、自分自身をほめ、自分に自信をもつことから、さらに、前向きによりよく生きようとする意欲を生み出していると考えられる。

著しく経済成長をとげた我が国は情報化が進み、物質的には豊かになったものの、心のゆとりのない世の中となり、大人社会のモラルも低下している。このような社会の中で、自分に自信がもてず、消極的になったり、自己表現ができなかったりして、教室に自分の居場所を見いだせない児童も見られる。

だからこそ、道徳教育においては、様々ななかかわりの中にある自分を深く見つめ、自分らしさを大切にし、あるがままの自分の存在価値を自覚しながら、人間としての望ましい在り方や、生き方を追求していくことが重要となる。

そのためには、指導過程や指導方法を工夫するとともに、保護者や地域の人々など、児童の身近な存在である大人と共に考えたり、語ってもらったりすることが大切である。そのことを通して、一人一人の児童の心に響く道徳授業を展開していくことが、「自分らしさを大切にし、よりよく生きようとする心を育てる」と考えた。

そこで、第1分科会では21世紀を生きる児童が、これからの長い人生を自分らしさを失わずに生きていくためには、新しい自分との出会いを信じ、自分に自信がもてる児童を育てることが大切であると考え、本主題を設定した。

2 児童の実態調査・分析

(1) 調査目的

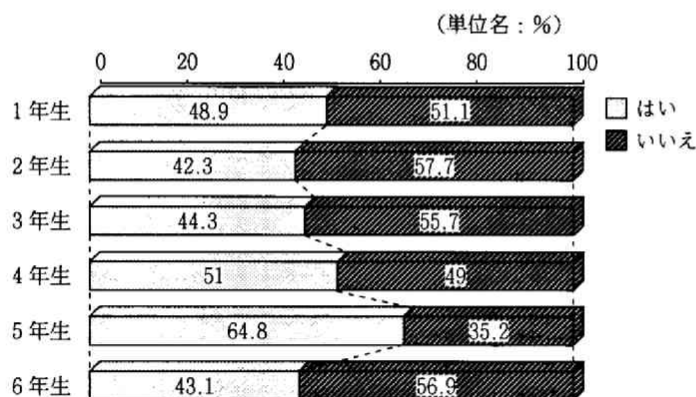
自分自身のことに関する児童の意識や行動の傾向を把握し、指導の工夫に役立てる。

(2) 調査方法

都内6校の児童、第1学年から第6学年の合計652名を対象にして、自由記述を含む選択肢法による質問紙調査を行った。内容は全学年共通とした。

(3) 結果と考察

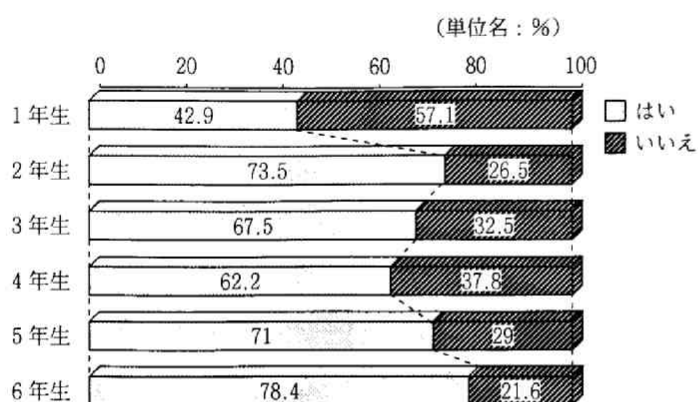
設問1：あなたは、自分のよいところを言えますか。



低学年はよさとして自分自身の得意なことを挙げる傾向にあり、高学年になると、他の人への奉仕的なものや対社会的な行為が増えてくる。

自分のよいところが言えない理由としては、全学年を通して「自分のよいところは知っているが他人に話すのははずかしい」が多い。また「自分のよいところが分からない」も多い。

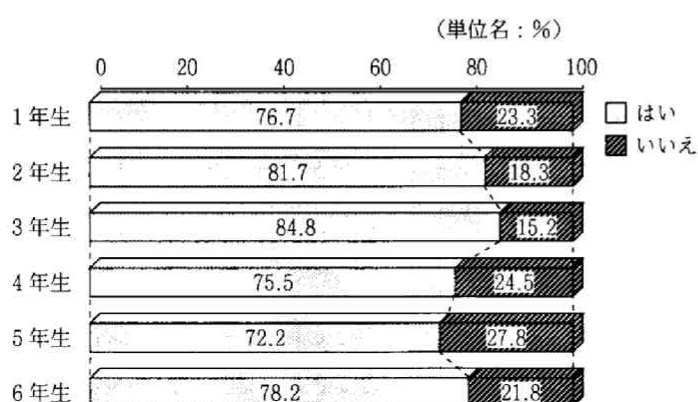
設問 2 : あなたは自分の考えと友達の考えが違うとき、自分の考えを言えますか。



自分の考えが言えない理由としては、「はずかしい」「自信がない」や、相手との関係悪化を懸念して言えない場合が多い。

低学年は、主に「はずかしい」ために自分の考えを言えない傾向が強いが、高学年では、相手から言い返されることを恐れる傾向が見られる。しかし一方で、「自分の考えは自分の考え」と認めて発言できるようになる傾向も見られる。

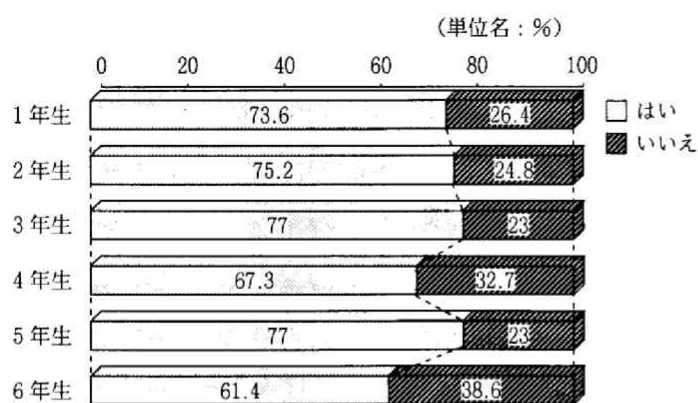
設問 3 : あなたは困難なことがあった時、最後までやりぬくことができましたか。



全学年を通して、困難な課題をやり遂げた経験があると考える児童が多い。

その内容としては、学習面や生活面において教師や親から提示された課題についての取り組みが多く、趣味や習い事など自分がやりたいことに関してはあまり困難だと感じていないと考えられる。しかし、高学年になるにつれて自分なりに課題を決め、それに対してあきらめないで取り組む傾向が出てくる。

設問 4 : あなたは、自分のよいと思ったことを行動に移したことがありますか。



「自分のよいと思ったこと」として、低学年では学習や趣味など自分自身にかかわることや友達にかかわる内容が多いが、学年が上がるにつれ、対社会的・奉仕的な内容が多くなる。

反面、「いいえ」の意見の中では、「面倒くさい」など他者とのかかわりを避けたり、「よい子ぶる・余計なお世話」など関係悪化を懸念して、できないという傾向も見られる。

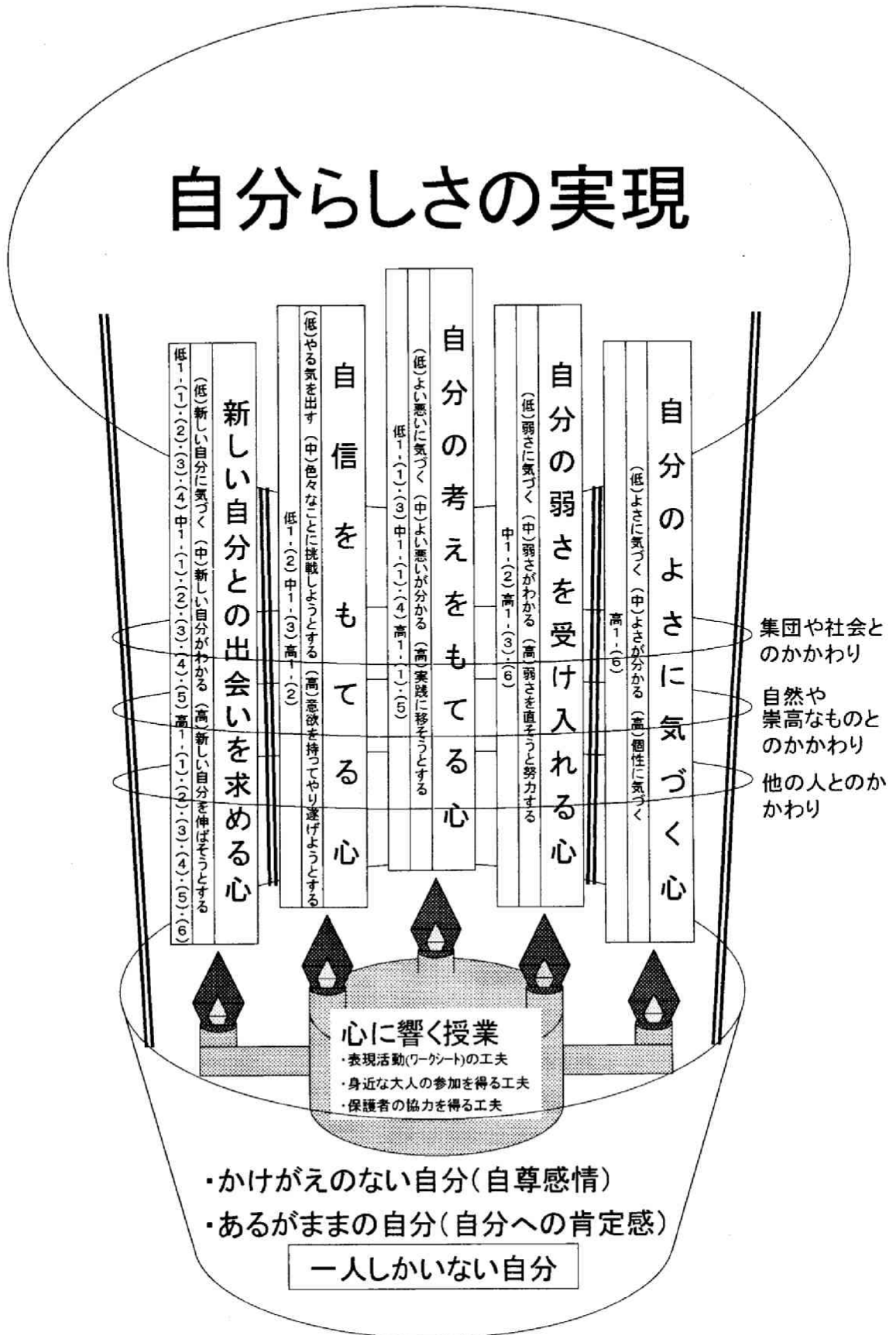
(4) 全体を通して

数値としての学年間の違いはあまり見られなかったが、自由記述の内容から、低学年は自分の外的な行為を評価して設問に答え、高学年は自分の内面的な心の動きを評価して設問に答える傾向が見られた。また、半数近い児童が「自分のよさを表現できない、分からない」状態にある。これらのことから、道徳の授業において自己理解を明確にし、あるがままの自分の存在価値を自覚することが児童にとって大切であり、さらに発達段階を考慮した指導の工夫をすることが重要であると考えられる。

3 「自分らしさを大切にし、よりよく生きようとする心」を育てる指導の工夫

(1) 本分科会では、「自分らしさを大切にする心」を次のようにとらえた。

○「自分らしさを大切にする心」とは



(2) 指導の工夫について

自 分 ら し さ の 実 現



—— 一人一人の心に響く道徳授業を通して ——

表現活動（ワークシート）の工夫

◎確かな自己理解を図る

展開後段の自己を振り返る場面で、書くという表現活動を取り入れ、自分自身をしっかりと見つめさせる。
児童にとって書きやすいワークシートを考える。

身近な大人の参加を得る工夫

◎道徳的価値の自覚を深める

児童が、道徳的価値に夢をもてるようにするためには、教師だけではなくより多くの大人の生き方を学ぶことが有効。

{ 直接…保護者，地域の方，担任以外の教職員，
児童の知っている人物等
間接…ビデオ，CD，テープ等

保護者の協力を得る工夫

◎道徳的価値を広げる

道徳の授業で学習したことが、日常生活で生かされるようにするためには、家庭との連携も大切な要因となる。そのためにも、児童が学んだことを保護者にも知らせ、共に考えていくことが必要。

ワークシートに家庭（保護者）からの言葉の欄を設ける。

4 実践事例（第5学年）

- (1) 主題名 自分の特徴を知り、長所を伸ばそう 1-(6)
資料名 明の長所（光文書院）
- (2) ねらい 自分を知り、自分の長所を伸ばしていこうとする気持ちを育てる。
- (3) 分科会テーマとの関連

- ① 展開後段で…
- ・確かな自己理解を図り「自分らしさ」を考えるために、書く活動を取り入れる。
 - ・事前に書いておいた友達からの手紙を読むことで、新しい自分を発見させる。
- ② 終末で…子どもたちの身近な存在としての地域の方の話聞くことで、心に響くまとめをする。
- ③ 事後に…自分の書いたワークシートに家庭からの言葉をもらい、本授業の価値の定着や広がりを図る。

(4) 展 開

	学習活動	主な発問と児童の反応	支 援
導 入	1 自分の特徴を発表する。	○自分のよいところ、気になっているところはどんなところでしょう。 ・サッカーが得意 ・誰とでも仲良くできる	・自分の特徴を思い浮かべ、資料への関心をもたせる。
展 開 前 段	2 資料「明の長所」を読み、話し合う。	○やす子は明を、どう思っていたでしょう。 ・ふざけて困る ・からかうので嫌 ◎明を思い返しなが、やす子が考えた事は？ ・明は自分のよいところに気付いているかな ・明の良いところを知らせてあげたい ○やす子は明の作文を書き終わった後、自分についてどんなことを考えたでしょう。 ・わたしらしさって、何かな ・明は、わたしをどう思っているのかな	・表面的に明をみていたことをおさえる。 ・誰にでもその人らしいよさがあることに気付かせる。 ・自分らしさを知る大切さに目を向けさせる。
展 開 後 段	3 自分を振り返り、自分らしさについて考える。	○自分らしいと思う所は、どんな所ですか。 ・友達を笑わせたりして楽しく過ごせる所 ・どんなことでもあきらめない所 ○友達の手紙を読んで、どう思いましたか。 ・自分にもこんな所があったのか	・ワークシートに書くことで自分をしっかり見つめさせる。 ・自分らしさを再発見させる。
終 末	4 地域の方の話聞く	○自分らしく生きている地域の方を紹介します。	・自分らしく伸びる意欲をもたせる。

(5) 考 察

- ・展開後段で十分な時間を確保し、書くという活動を取り入れ、自分をしっかり見つめさせたことは、自分らしさに気付かせる上で役立った。
- ・展開後段で事前に書いた手紙を交換し合ったことと終末での地域の方の話は、子どもたちの心を十分に動かした。
- ・授業で家庭や地域との連携を図っていくためにも、授業だけではなく年間を通して日頃から交流をもつことが今後の課題である。
- ・地域の方にねらいに沿った話をしてもらえたことが、子どもたちの心を動かすことに結び付いたが、ねらいとする話をしてもらえる地域の方を見つけることが、難しかった。

II 互いに認め合い、よりよくかかわろうとする心を育てる指導の工夫（第2分科会）

1 分科会テーマ設定の理由

物質的に恵まれ、情報化や高齢化・少子化が進む現在の社会の中で、児童の人間関係にも変化が見られるようになってきた。集団の中で自分を表現できない子や友達とうまくかかわれない子が増えたのは、他の人と自分との違いを否定的に見たり、いやなことはさげたりするなど、他の人とのかかわりが希薄になったためであると考えられる。

しかし、人間は、人とかかわることなくして生きていくことはできないものであり、本来、他の人とよりよくかかわりたいと願っている。主体的で豊かなかかわりから生まれるよりよい人間関係をつくることは、児童の成長にとって不可欠である。そして、よりよい人間関係をつくっていくためには、一人一人の心を豊かにすることが大切であると考えられる。いろいろなことに感動する心や、自分と同じように他の人を認め受容する心、思いやりの心など、豊かな心をもつことで、児童は、自分を確かなものとして受けとめ、相互理解を深めることができる。このようなよりよい人間関係をつくっていくために指導を工夫していくことが、児童の心をゆさぶり『一人一人の心に響く道徳授業』となると考える。

第2分科会では、分科会主題として、視点2とのかかわりから、『互いに認め合い、よりよくかかわろうとする心を育てる指導の工夫』と設定した。すべての児童は、周囲の人に「認められたい」という欲求をもっている。そして、認められることで心が安定し、自信をもって意欲的に行動できる。互いの違いを認め、受け入れたり、相手のよさを自分の生き方に取り入れたりすることで、人としての生き方を高めることができると考えた。

2 実態調査・分析 調査日：平成11年7月

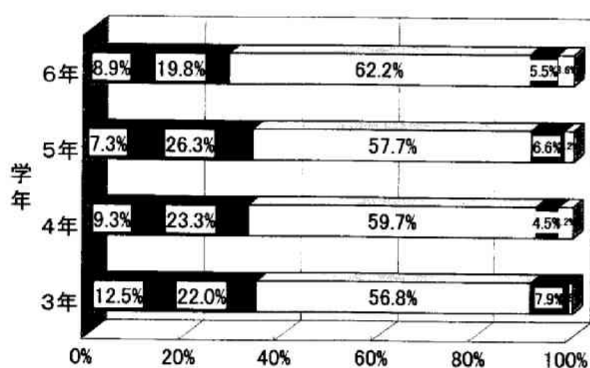
(1) 調査目的：友達や他の人をどのように意識しているか、またどのようにかかわっているか、その実態をつかみ、研究の資料として役立てる。

(2) 方法：調査対象は、都内6小学校1～6年 2,293人。

選択肢による質問紙法を用い、設問1は設問の難度を考慮して3～6年、設問2は、全学年を対象として調査した。

(3) 結果と考察

設問1 友達の考えがあなたとちがっていたとき、あなたはどうしますか。（3～6年）



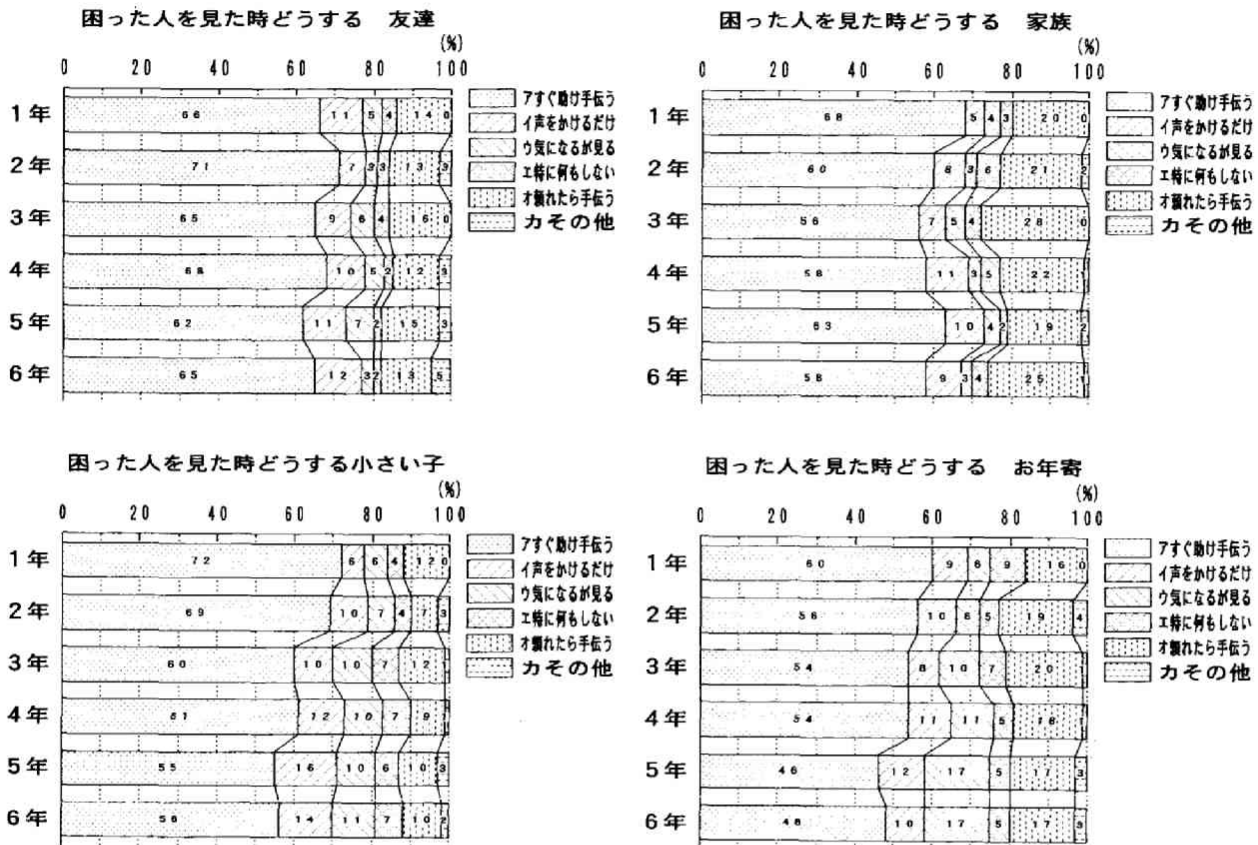
ア. 自分の考えを通す
イ. 友達の考えに合わせる
ウ. 話し合って決める
エ. 友達の考えは認めるが、自分は従わない
オ. その他

『ウ. 話し合って決める』がどの学年も60%ぐらいである

ことから、友達と積極的にかかわりをもとうとしていることが分かる。しかし、『イ. 友達の考えに合わせる』が、どの学年も20%前後と比較的多く、友達に自分の考えを言えない児童

が少なくないことが分かった。また、『ア、自分の考えを通す』『エ、友達の考えは認めるが、自分は従わない』が、学年が上がるにつれて減っている。このことから、児童はトラブルを避け、無難に人間関係をつくらうとしていることが推察される。

設問2 困った人を見た時、あなたはどうしますか。



どの学年でも、友達と家族に関しては、困っていたらすぐに助けようとしていることがわかる。しかし、小さい子、お年寄りへの積極的なかかわり方が高学年になるにつれ、少なくなってきた。小さい子やお年寄りへのふれあいを増やすとともに、よりよいかかわりがもてるような指導を工夫する必要性を感じた。

(4) 全体を通して

今回の調査から児童は自分の周りの人と、自分から積極的にかかわりをもとうとしていることが分かった。特に、自分の近くにいる友達に対して、かかわりを求めていることが分かる。しかし、一部ではあるが、自分の考えを友達にぶつける事はせず、トラブルを避けようとする傾向も推察された。また、友達や家族以外の人へのかかわり方は、学年が上がるにしたがい、消極的になっていくことも分かった。これらのことから、友達、家族やより広い範囲の人達と、よりよいかかわろうとする心情や態度を育てる重要性を感じた。

そこで、第2分科会では、様々な体験を通して児童の心をゆさぶり、道徳の授業で、互いのかかわりを深めていく工夫をしていくことが必要ではないかと考えた。

3 様々な体験を生かした指導の工夫

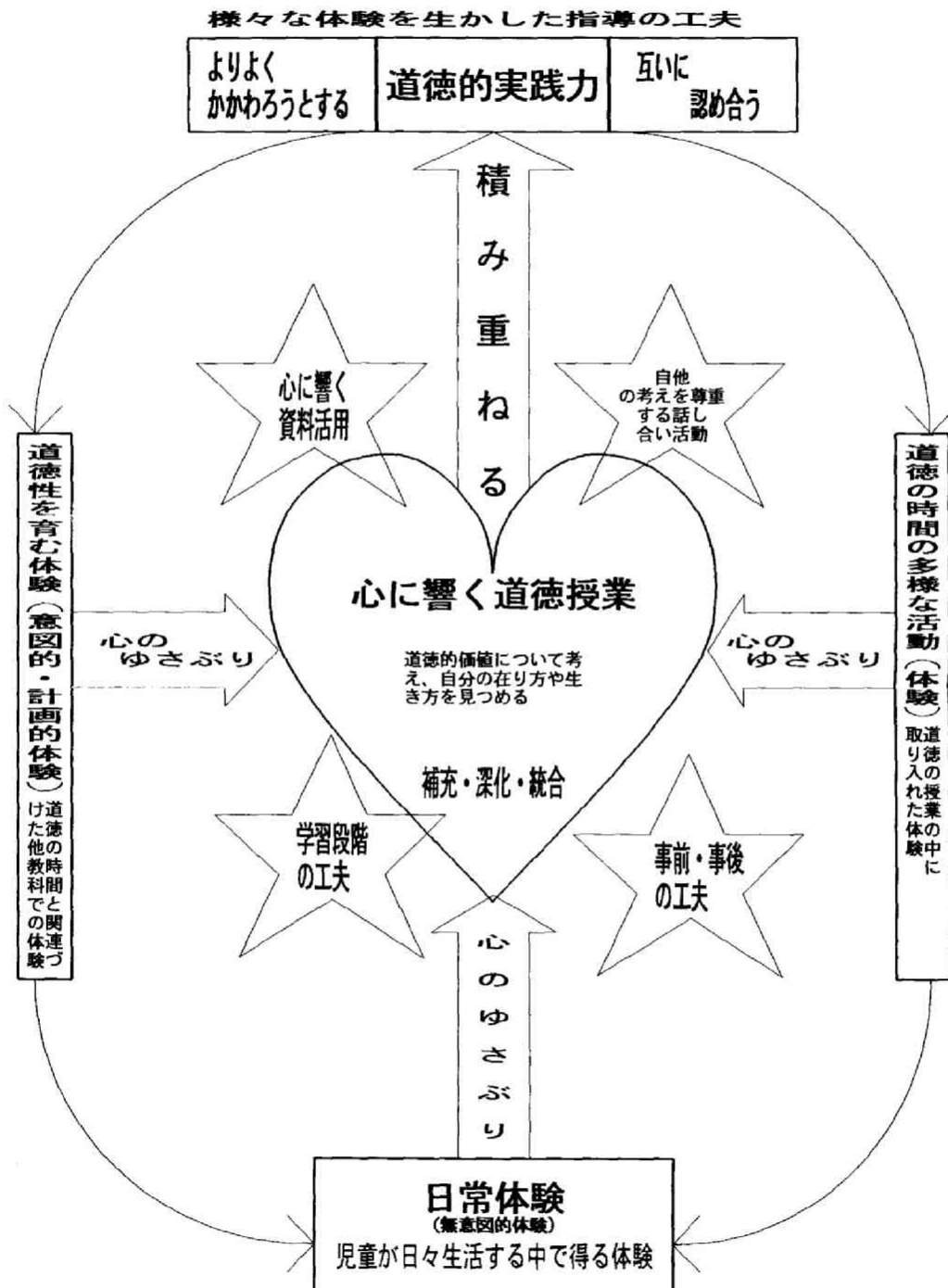
第2分科会では、様々な体験を、

日常体験（無意図的体験） …児童が日々生活する中で得る体験

道徳性を育む体験（意図的・計画的体験） …道徳の時間と関連付けた他教科
での体験

道徳の時間の多様な活動（体験） …道徳の授業の中に取り入れた体験

と、とら
えた。



これらの体験によって、児童の心をゆさぶり、道徳の時間に補充・深化・統合し、児童の心に響く道徳授業を行うための指導の工夫として、次の3点を考えた。

心に響く資料活用の工夫

- 児童の身近な問題を取り上げ、振り返りやすくする。
 - ・身近な場面設定
 - ・親しみやすい登場人物
 - ・体験を生かした資料
 - ・自作の資料
- 考えをより深められるように、様々な活用のしかたを考える。
 - ・T1, T2による分担読み
 - ・資料の分断
 - ・紙芝居型式
- 具体物の掲示を効果的に活用する。
 - ・実物の掲示
 - ・ペープサートの表情の変化
 - ・BGMや小道具を用いた場面の再現
- 教師が感動できる資料を選ぶ。

自他の考えを尊重する話し合い活動の工夫

- 児童が自分の考えをまとめるために必要な時間を確保する。
- 動作化や役割演技をすることにより、より共感できるようにする。
- 友達の考えと自分の考えの同じところや違うところに気付かせ、認め合う。
 - ・ワークシートの交換と意見の交換
- 小グループや討議形式による話し合いをする。
- 一人一人の考えを明確にしての話し合いをする。
 - ・自分の考えを表現するための工夫（カラーコーンの使用、座席の移動）
 - ・ワークシートの活用
 - ・対面形式
- 他の教師等との協力的な指導により、教師と児童、児童同士のかかわりを豊かにし、一人一人の考えをきめ細やかに取り上げる。

学習段階や事前・事後の工夫

- 他の教育活動や他教科との関連を考える。
 - ・体験を生かすための、より具体的な学級における指導計画の作成
 - ・友達のよいところ見つけや優しい心見つけなど、日常生活とのかかわりを重視
 - ・グループエンカウンターによる他者理解の活動
- 児童の実態や発達段階に合わせて、年間指導計画の作成をする。
- 教師が、視点の柔軟さ、授業に対する情熱をもちつづける。
- 実態が把握できるような調査をする。
 - ・アンケート
 - ・行動観察
- ワークシートや道徳ノートに、教師が共感的なコメントを記入する。
- 生活の中でさらに体験を積み重ね、実践力を高めていく働きかけをする。
 - ・実践できたことへの賞賛
 - ・児童が認め合う場の設定

4 実践事例（第3学年）

(1) 主題名 本当の友達とは 2-(3)

資料名 赤いお守り (文溪堂)

(2) ねらい 友達のことを理解し、助け合いながら友情を深めようとする心情を育てる。

(3) 展開

	学 習 活 動	主な発問と予想される児童の反応	留 意 点
導 入	1. 友達について想起する。	○自分にとって大切な友達いますか。 ・たくさんいる。 ・親友がいる。	・児童に挙手をさせる。
展 開	2. 資料「赤いお守り」を読んで話し合う。	①美雪にそろばんの練習を励まされたとき、千春はどう思ったでしょう。 ・ありがとう。 ・やさしいな。 ・友達っていいな。 (補助発問：2人はどういう友達なのでしょう。) ・息が合う友達。 ・うらやましがられるような友達 ②美雪に宿題を見せてもらえなかったとき、千春はどう思ったでしょう。 ㊦2人組の役割演技・役割交代 ・千春役：「見せてくれたっていいでしょ。」 ・美雪役：「だめ。自分が悪いでしょ。」 ・千春役：「友達だからこそ見せてよ。」 ・美雪役：「友達だからこそ、見せられないわ。」 ㊧役割演技・役割交代 ・美雪が、けちだと思った。 ・千春は、ずるい。 ㊨役割演技の感想 ・千春は、自分でやるべき。 ・美雪は、友達思いだ ③美雪から、手紙と赤いお守りをもらったとき、千春はどう思ったでしょう。(千春になったつもりで、美雪に返事を書いてみましょう。) ・お守りありがとう、検定がんばるね。 ・この前は、ごめんなさい。	・2人は、うらやましがられるほど仲がよかったことに気付かせる。 ☆1隣の席の児童と役割を演技をさせる。 ・演技をした児童から感想を聞く。 ・見ていた児童から感想を聞く。 ☆2児童同士ワークシートを読み合う。
	3. 今までの経験を振り返る。	○友達は、いいなと思うのはどんなときですか。 ・助けてもらったとき。 ・一緒に遊んだとき。	☆3いいところ見つけを想起させる。
終 末	4. 歌を歌う。	○「友達はいいな」を歌う。	・実践への意欲を促す。

(4) 考 察

- ・全員が行うことにより、役割演技が深まった。(☆1)
- ・ワークシートを見せ合うことにより、違う意見を認め合うことができた。(☆2)
- ・より身近な問題として、後段で自分を振り返ることができた。(☆3)

Ⅲ 生命を大切にすることを育てる指導の工夫（第3分科会）

1 分科会テーマ設定の理由

現代の生活は、物が豊富にあふれ、便利で快適な生活を追求するあまり、自分中心の意識になりやすくなっていると言える。さらに、一つのことを最後まで大切に必要性も薄れつつあり、それがひいては子どもたちの友達や動植物を大切にすることを希薄にしていると言っても過言ではないだろう。

生命の大切さについては、「人の命は大切なもの」「生き物を大切にしよう」など、単なる知識としてだけ知っている子どもが多く見られる現状がある。自然界には人間はもちろん動物や植物など生命のあるものが数限りなく存在し、その生命はかけがえのないものである。それらの生命の不思議さ、かけがえのなさを子どもたち自身が深く受け止めることにより、自分はもちろん、他の人や生き物の生命を大切にしていこうとする心が育つと考えた。

また、第3分科会では、道徳部会の全体主題「一人一人の児童の心に響く道徳授業」を受け、心に響くとは、児童一人一人が心を動かすことであると考えた。子どもたちは、日常の生活の様々な場面の中で多くのことを感じ、考え、心を動かしている。特に、その心の動きは子どもたち自身が何かを体験したときに、より大きくなる。だからこそ、道徳の授業においても積極的に体験活動を生かしていくことが大切なのである。なぜなら、体験というものは第三者によって教えられたり与えられたりするものではなく、自分自身にもっとも直接的に響くものだと考えたからである。

そして、子どもたちの心の動きと「生命尊重」の道徳的価値が結びついていったとき、生命を大切にしていこうとする道徳的心情が育ち、道徳的実践力も身に付いていくものと考え、本分科会の主題を設定した。

2 児童の実態調査・分析

(1) 調査目的

「自然や崇高なものとのかかわり」に関する児童の実態と意識の傾向を把握することにより、指導の重点の設定、資料の選択、指導法の工夫などに役立てる。

(2) 調査方法

「自然や崇高なものとのかかわり」に関する設問を7項目用意し、選択肢と記述式による質問紙調査を行った。質問内容は全学年共通とした。

調査対象は、東京都公立学校児童（6校1～6学年、計402名、6月実施）である。

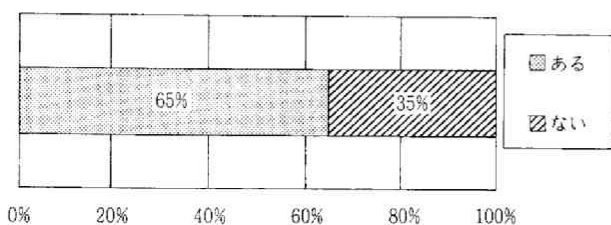
(3) 結果と考察

設問1と設問2は、児童の自然との関わりの有無と意識を調査した。その結果、多くの児童が虫を捕まえたり、草花で遊んだり、木の実やセミの抜け殻などを見つけたりした体験をしていることが分かった。また、未体験の児童もしてみたいという気持ちをもっていることから、自然に対する関心度も高いことが明らかになった。

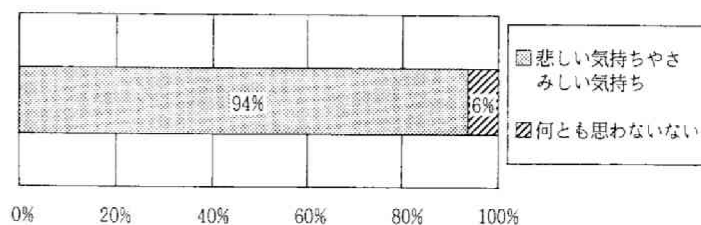
○設問3と設問4は、動植物を飼育栽培する体験と意識を調査した。その結果、今までに家で飼育栽培したことのある児童は、8割近くいることが分かった。そして、その体験のある児童は、動植物に対する優しい心をもっていることも考察された。一方、体験のない児童は、住宅事情等でできない場合もあるが、半数以上は、飼育栽培に関心をもっていないことが分かる。そこで、学校で飼育栽培する等の場を設定し、体験活動をさせることにより、関心をもっていない児童も動植物を愛する心をもつことができるのではないだろうか。

○設問5と設問6は、動物の生と死に対する体験と意識を調査した。その結果、死に立ち会った体験に比べて、生に立ち会った体験は少ないことが分かった。(図1, 図3)しかし、どちらの場合も動物の死や生によって心を動かされている児童が多いことが分かる。(図2, 図4)これらの貴重な体験を生かし、生きる尊さを感じとらせていきたいと考える。

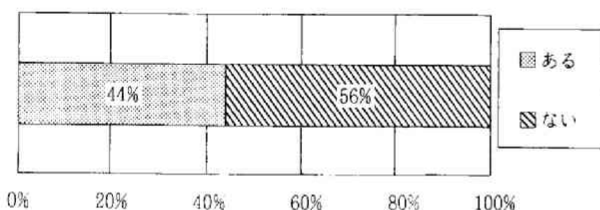
5-① 飼っていた動物が、死んだことがありますか。(図1)



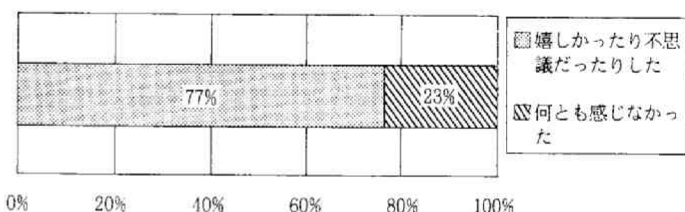
5-② (体験のある児童対象) その時、どんな気持ちになりましたか。(図2)



6-① 動物の赤ちゃんが生まれるところを見たことがありますか。(図3)



6-2 (体験のある児童を対象) その時、どう感じましたか。(図4)



○設問7は、美しいもの、崇高なものとの関わりに関する意識を調査した。その結果、多くの児童が芸術作品や自然の美しさ、人の生き方に感動する心をもっていることが分かった。

特に、人の生き方では、サッカーや野球選手などのスポーツ選手の生き方に感動したり、身近な祖父母を尊敬したりする児童が多いことも明らかになった。

3 指導方法の工夫

(1) 体験活動を生かす学習過程のあり方

児童に体験活動から得られた各自の体験をできるだけ多く語らせることや、与えられた資料を自分の体験になぞらえて考えさせることで、ねらいとする道徳的価値をより深く見つめることができるのではないかと考え、次のような学習過程を設定した。

	児童の活動	指導上の留意点
導入	・体験をほり起こす。	・一人一人の体験を思い起こさせる題材の提示 実物 日記 観察ノート 写真 ビデオ等
展 開	前 段	・話し合いの工夫 * 体験を想起させるような発問 * 切りかえしをして視点を変える。 * 動作化 * 役割演技 * グループでの話し合い * 書く作業を取り入れる。 * ゲストティーチャーの活用 〔資料を通じて、導入段階での自己の体験を深めたり、広げたり、高めたりさせる。〕
	後 段	・発問の工夫 育てたい児童像にせまれるようにするために。 * 低学年－生きている喜びを感じられるような発問 * 中学年－自分の生命の尊さを感じられるような発問 * 高学年－自他の生命の尊さを感じられるような発問 ・自己の内面を振り返り、見つめる時間の確保 (書く作業やグループでの話し合いを通して)
終末	・生命を大切にしようとする気持ちを持つ。	・その気持ちを具体的に表現させる。 歌・詩・格言等 ・ゲストティーチャーや教師の説話

(2) 体験活動を生かす指導計画の工夫

道徳の時間をかなめとして、他の教科や領域、行事における体験活動と結びつけた指導計画を立てる。

- ・組み合わせや時期の工夫の例
 - * 生活科（朝顔の栽培，春夏）— 道徳 — 生活科（チューリップの栽培，秋冬）
 - * 道徳 — 特別活動・総合的な学習（アイマスク体験，ボランティア体験）— 道徳
 - * 社会（環境問題）— 道徳 — 特別活動（清掃活動）

(3) 体験活動を生かす資料の選択の工夫

体験活動をふまえて、その時の体験を深められる資料を選択する。

低学年－動植物の成長などの身近な題材で、生きている喜びを感じさせる資料

中学年－体験に関連のある題材で、自分の生命の尊さに気づかせる資料

高学年－体験をもとに、自他の生命の尊さを深く考えさせる資料

4 実践事例（第1学年）

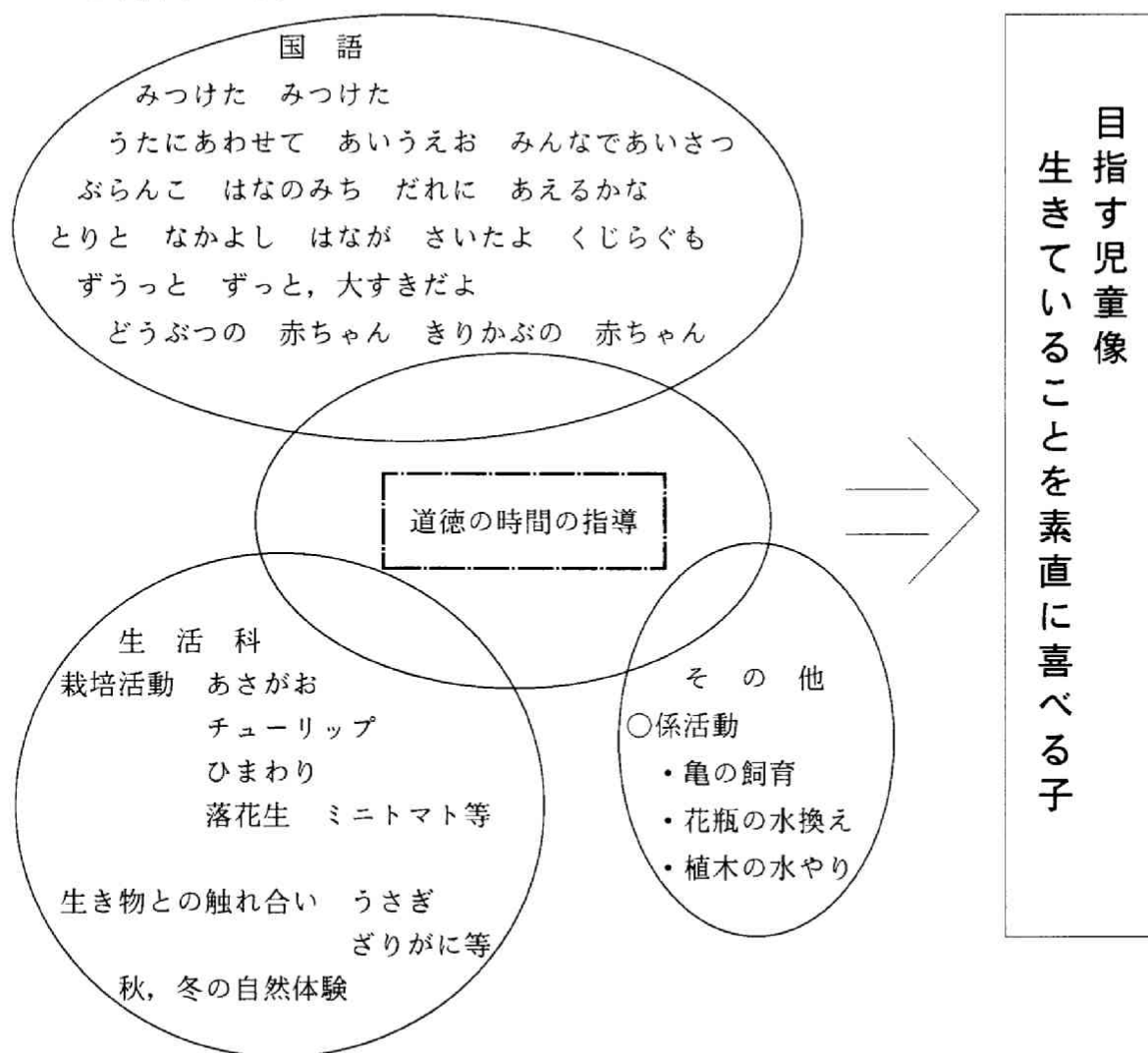
(1) 主題名 不思議だな 3-②生命尊重

資料名 ふしぎな たね（文溪堂）

(2) ねらい

生きていることの素晴らしさに気付き、生命あるものを大切にしようとする気持ちを育てる。

(3) 「他教科等との関連」



(4) 展開

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応	指導上の留意点
導 入	1. 朝顔の栽培の体験について、発表する。	○みんなで朝顔を育てた時のことを思い出して、発表しましょう。	○種等の絵を用意し、提示する。
	2. 資料「ふしぎなたね」を読んで	①土の中にいる時、朝顔はどんな気持ちだったでしょう。	○朝顔の気持ちを考えていくことで、より一層生

展 開	話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・早く芽がでないかな。 ・毎日、お水をありがとう。 <p>②芽が出た時、朝顔はどんな気持ちだったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やっと外にでられた。 ・気持ちがいいな。 ・うれしいな。 <p>③大きな花を咲かせた朝顔は、どんな気持ちでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日お世話をしてくれて、ありがとう。 ・お水をもらってうれしかったよ。 ・やっと、咲いて、よかったな。 ・きれいで、うれしいな。 	<p>命あるものを大切にしようとする気持ちを深めていく。</p> <p>○朝顔と子どもになって役割演技をする。</p> <p>○小道具（お面）を活用することにより、朝顔の気持ちになれるように工夫する。</p> <p>○朝顔の感謝の気持ちと、「生きていてよかった。」という気持ちを感じ取らせる。</p>
	<p>3. 国語の時間に書いた「朝顔への手紙」を聞く。</p> <p>4. 生きていることを素直に喜び合う。</p>	<p>○みんなが書いた「朝顔への手紙」を読みます。</p> <p>○朝顔のように、みんなも生きていて、素晴らしいなとか、うれしいなとか、よかったなとか感じるの、どんな時ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おいしいものを食べた時 ・お友達と遊んでいる時 	<p>○手紙を紹介することで、自分たちも朝顔を大切にしているんだという思いを深めさせる。</p> <p>○感じたまま、思ったままを自由に表現させる。</p>
終末	5. 歌を歌う。	○みんなで「手のひらを太陽に」を歌いましょう。	○思いを具体的に表現させる。

(5) 考 察

- ・導入に時間をかけたことは、多くの児童にそれぞれの体験を活発に発表させ、ねらいとする価値にせまる上で有効であった。
- ・他教科との関連を考慮しながら指導計画を作成したことは、体験活動を十分に生かし、道徳的価値の自覚を一層深めていく上で有効であった。
- ・朝顔の栽培という、生活に密着した資料を選択したことは、自らの体験と重ね合わせて、思いを深めたり、広げたりする上で有効であった。また、役割演技に取り組む際にも、朝顔、子どもの両者の思いに自分をなぞらえやすいという点が有効であった。
- ・自己の内面を振り返る時間を確保するためには、書く活動や、グループでの話し合い等の時間を設定することも必要であった。

IV 人とのかかわりを大切に、郷土を愛する心を育てる指導の工夫（第4分科会）

1 分科会テーマ設定の理由

今回の学習指導要領の改訂では、低学年の4の(4)として「郷土の文化や生活に親しみ、愛着をもつ」が加えられた。これは学校週5日制の完全実施により地域社会で生活する時間が増えることや、生活科との関連を重視することなどを踏まえて学校、家庭、地域社会がより一体となって道徳教育を充実させるために設定されたものである。

児童にとって郷土とは「生活の場」であると同時に、人間形成に大きな影響を与え、生涯にわたって「心のふるさと」として精神的な支えともなっていくものである。そうした郷土意識を育てていくためには、郷土の自然や文化に触れたり、郷土の行事などに参加したりして、児童が郷土への親しみをもつことが大切である。その中で、郷土の人々との心の触れ合う交流をより豊かにすることによって、郷土への愛着がますます深まっていくものと考えられる。

人間同士の連帯感や思いやりが薄れ、郷土の自然や文化への関心が失われようとしている今日、郷土への積極的で主体的なかかわりを通して郷土を愛する心を育て、さらに、郷土をよりよくしていこうとする態度を育成することが大切であると考え本主題を設定した。

なお、学年の発達段階に応じて指導の重点を次のように定めた。

低学年…郷土の人々や文化・生活に親しみ、愛着をもって生活できるようにする。

（郷土に親しむ）

中学年…郷土と積極的にかかわり、郷土の文化や伝統を大切にしようとする。

（郷土を大切に）

高学年…郷土の発展に尽くしてきた人々の努力を知り、郷土の文化や伝統を受け継ぎ発展させていこうとする自覚がもてるようにする。（よりよい郷土をつくる）

2 児童の実態調査・分析

(1) 調査目的

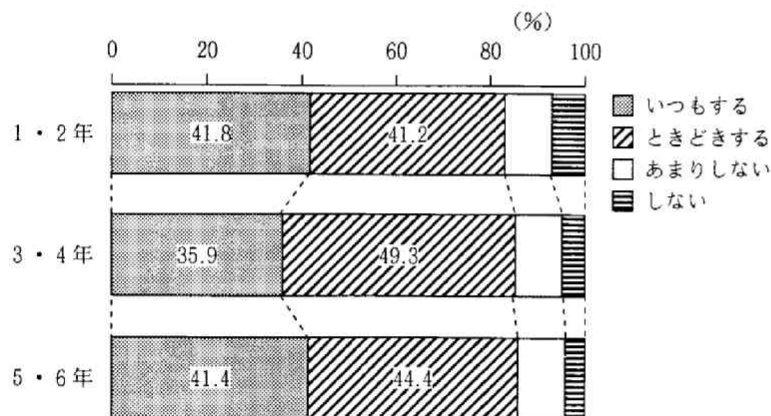
児童が自分の郷土やそこに住んでいる人とのようにかかわっているのか、また郷土に対してどのような意識をもっているかなどを調査し、今後の指導に役立てる。

(2) 調査方法

都内6校の第1学年から第6学年の児童2,067名を対象とし、一部自由記述を含む選択肢法による質問紙調査を行った。内容は全学年共通とした。

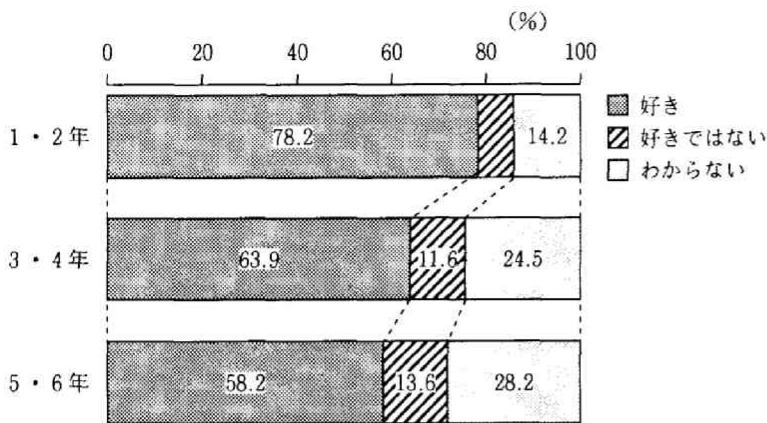
(3) 結果と考察

設問1：あなたは、近所の方にあいさつをしていますか。



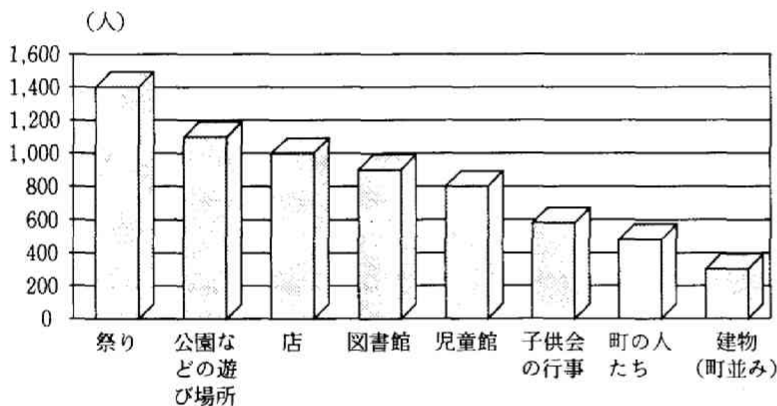
郷土の人とのかかわりを調べるためにあいさつを取り上げた。「いつもする」と「ときどきする」を合わせると80%を越え、あいさつをしている児童が多いことがわかった。しかし低学年を除くと、「ときどきする」が「いつもする」を上回っており、自分から進んで人とかかわろうとする意識がやや低いのではないかと考えられる。

設問2：自分が住む地域について、あなたはどのように思っていますか。



郷土に対する意識を調べるために「地域についての思い」を調査した。多くの児童が、自分が住んでいる地域について「好き」という思いを持っている。学年が上がるにつれ「分からない」と答える児童が増えているが、これは地域に対する意識が広がり、他と比較して考えたり、自分の住む地域の中の好ましくない面が見えてきたりするためではないかと思われる。

設問3：住んでいる地域の好きなおところはどこですか。



郷土への愛着を何を通して感じているかを調べるために「地域の好きなおところ」を調査した。地域の好きなおところとして「祭り」をあげる児童が最も多かった。地域の大きな行事である「祭り」を大変楽しみにしていることがわかった。「町の人たち」「こども会の行事」など、人とのかかわりがある項目がやや少なかった。

設問4：これから自分の住んでいる地域をどんな町にしていきたいですか。

◇自然環境面から

- ・ごみのないきれいな町 ・緑(自然)が多い町 ・水や空気がきれいな町 ・花いっぱい町
- ・生き物がいっぱいいる町 ・探検場所がある町 ・虫取りや雪合戦ができる町

◇施設環境面から

- ・公園、学校、店をふやしたい ・ボールが使える広い遊び場がほしい
- ・動物園、植物園がある町 ・児童館がいっぱいある町 ・博物館、図書館を多くしたい

◇人とのかかわりから

- ・みんな仲良く暮らす町 ・お年寄りに親切な町 ・祭りをたくさんやってほしい
- ・子どもが多い町 ・みんなが助け合う町 ・笑顔があふれる町 ・友達がいっぱいできる町
- ・体の不自由な人も安全に暮らせる町 ・大人も子どもも気軽に話ができるようにしたい

この調査から、児童は自分たちの郷土をよりよくしていきたいという願いを強くもっていることがわかった。その願いを、これから「自分たちにできることはないか」という実践意欲につなげていきたい。

3 研究の視点と指導方法の工夫

道徳の時間は、各教科・特別活動・総合的な学習の時間などで児童が経験し道徳的な行為を補充・深化・統合するものである。そこで、道徳授業の中に児童の様々な体験を生かしていくとともに、郷土を愛する心を育てるためには家庭や地域との協力を図り、授業に郷土のを取り入れていくことが大切であると考えた。「事前」「授業」「事後」のそれぞれの学習過程で、次の二つの視点から指導方法を工夫していくことにした。

(1) 各教科・領域との関連を図り、道徳授業に「体験」を生かす

① 道徳教育のかなめとしての「道徳の時間」を充実させる。

ア 各教科・領域と道徳の時間との関連を明らかにする。

「郷土を愛する心」を育てるための関連図を作成し、年間の見通しを立てる。

イ 「道徳の時間」からの広がりを図る。

「事前と事後の指導」も含めた道徳の時間の指導計画を立てる。

② 道徳授業に体験を生かす

ア 体験→道徳授業

各教科や領域の中での体験をもとに、道徳の時間の中で改めて自己を見つめることができるようにする。

イ 道徳授業→体験

道徳の時間の中で身に付いた道徳的实践力を、日常生活や各教科・領域の学習の中で実践できるようにする。

ウ 道徳授業に体験を取り入れる

道徳の時間の中で体験活動を行い資料や道徳的価値に迫ることができるようにする。

(2) 家庭・地域とのかかわりを深め、道徳授業に「郷土」を生かす。

① 地域にある自然や文化財・様々な施設を活用する。

ア 道徳授業の中で資料として生かす。

イ 各教科・領域との関連で、事前事後の指導に生かす。

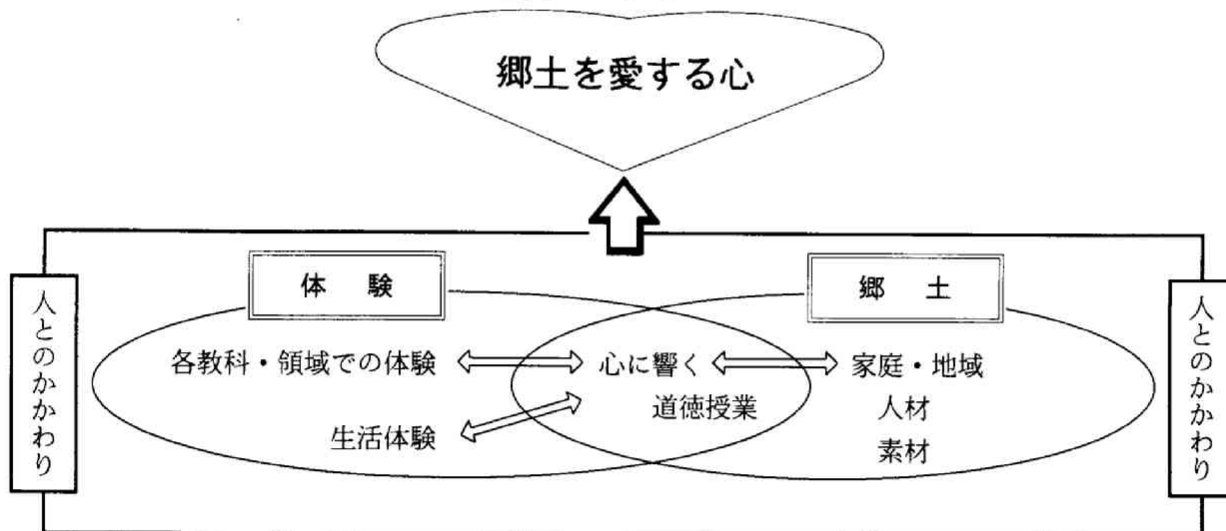
② 家庭や地域と共に道徳授業をつくる

ア 授業につながる形での直接的な協力

・地域の人たちの活動や体験などの資料化 ・地域の人たちの授業への参加

イ 事前・事後の指導での間接的な協力

・実態調査への協力 ・地域行事への参加



4 各教科と道徳の時間との関連図（年間計画） ★は指導の工夫

月	家庭・地域	他の教育活動（☆教科 ○特別活動）	児童の感じ方・考え方
5	地域クリーン作戦	☆○遠足 ○ヒマワリタイム（縦割り班活動）	<ul style="list-style-type: none"> ・町がきれいになったね。 ・神輿をかついで、楽しかった。 ・この花火大会は、昔から続いているんだね。 ・踊って楽しかった。 ・太鼓が上手に演奏できたよ。 ・町の人も大勢参加していたね。 ・たくさんの人々の努力で伝えられてきたんだな。
6	神社祭礼	☆社会「くらしとゴミ」	
	日曜参観	道徳「お母さんの足の親指」4-(3)（家族愛）	
7	PTAバザー	○ユニセフ募金	
	花火大会		
8	各町会行事	道徳「かべにつけた手のあと」4-(4)（愛校心）	
9	トライアスロン	○児童集会「すみだ音頭」 ☆○運動会「郷土芸能すみだ音頭」	
10	区民まつり	○全校歩く会	
	○○小まつり	○折り紙の壁画作り ☆社会「荒川放水路」	
11		☆音楽会 ○お年寄りを招待	
		道徳「祭りだいこ」4-(5)（郷土愛） <ul style="list-style-type: none"> ・郷土の行事を受け継いできた人々の思いを知り、郷土の文化と伝統を大切にしようとする心情を育てる。 ★ゲストティーチャーの活用	
1	ふれあい活動	○昔の遊び大会	<ul style="list-style-type: none"> ・5000人の第九コンサートを歌い継いでいこう。
2	国技館5000人の第九コンサート	道徳「響け歓喜の歌」4-(5)（郷土愛） ☆音楽「歓喜の歌」	

5 実践事例（第4学年）

(1) 主題名 受けつぐ郷土の文化（内容項目4-(5) 郷土愛）

資料名 「祭りだいこ」（学研）

(2) ねらい

郷土の行事を受け継いできた人々の思いを知り、郷土の文化と伝統を大切にしようとする心情を育てる。

(3) 主題にせまるための工夫

	事前	授業	事後
体験を生かす	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会 表現活動 ・音楽会 「八木節」 	A（体験を振り返る活動の工夫） ・写真掲示による導入～祭りの体験を想起させる。 B（体験を生かした表現活動の工夫） ・ワークシートの活用～事前の体験を生かせるような表現ができるようにする。 C（授業の中に体験活動を取り入れる工夫） ・郷土の踊りを踊ることによりねらいにせまる。	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科 「郷土の開発」 ・ふれあい活動 「伝承遊び大会」 ・音楽科 「歓喜の歌」
郷土を生かす	<ul style="list-style-type: none"> ・生活体験と 素材調査 ・実態調査 	E（地域教材を生かす工夫）郷土芸能を取り上げる。 D（家庭や地域の力を生かす工夫） ・ゲストティーチャーの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・学級だよりや道徳 ノートの活用。 ・ふれあい活動

(4) 展 開

(AからEは主題にせまるための工夫を表す)

	学習活動・発問と予想される児童の反応	指導上の留意点
導 入	<p>1. 写真を見て、祭りの様子を思い起こす。</p> <p>○ 祭りでどんなことをしましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神輿をかついだり山車を引いたりした。 ・おはやしをした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・神輿を担いだり山車を引いたりした体験を想起させる。→A ・資料への導入をはかる
展 開	<p>2. 資料「祭りだいこ」を読み、良子の気持ちについて考える。</p> <p>○ お父さんから、おはやしをしてみないかと言われた良子はどう思ったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女の子は、今まであまりしていないのに。 ・一人では、恥ずかしい。 ・お父さんもおじいさんもしたのなら、私もしてみようかな。 <p>◎ 練習を始めてから、一生懸命に教えてくれる人や、まわりの人たちの言葉を聞いて良子はどんなことを思ったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・難しい。やっぱりしなければよかった。 ・自分たちのために、こんなにみんなが一生懸命教えてくれるので練習をしよう。 ・村じゅうの人が、夏祭りを楽しみに待っているんだな。 <p>○ 祭りの日、山車の上で見物の人の顔を見たとき、良子はどんなことを思ったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おはやしを続けたい。2年後には妹も一緒にしよう。 ・太鼓をたたいて祭りを盛り上げられてよかったな。 ・村の人たちに喜んでもらえるってうれしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・祭りのおはやしを流し臨場感を高める。 ・迷っている良子の気持ちを考え、共感できるようにする。 ・まわりの人たちの気持ちを考えさせる。 ・練習をしながらの良子の思いの変化に、気づかせる。 ・祭りの日に、山車の上で太鼓をたたき良子の思いをワークシートを活用して考えさせる。→B
	<p>3. 町会や地域の人が準備をしてくれる、町の行事を話し合う。</p> <p>○ 自分たちの町の行事には、どんなものがありますか。また、それに対してどう思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神社のお祭り。これからも続くといいな。 ・夏休みのどしょうつかみ大会。準備が大変だろうな。 ・クリーン作戦。きれいになって気持ちいい。また参加したい。 ・盆踊り。これからもずっと踊り、伝えたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事に人々がどのような気持ちでかかわっているかをおさえる。 ・保護者のアンケートも活用する。→E
終 末	<p>4. ゲストティーチャーの話の聞いたり、一緒に踊ったりする。</p> <p>○ 墨田の町に続いている行事や郷土芸能を踊り継いでいることを教えてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・郷土芸能をみんなで踊る。和太鼓も踊りに合わせてたたく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・踊り継いできた思いを話していただく。→E ・心をこめて一緒に踊る。→C →D

(5) 考 察

① 体験を生かした指導の工夫について

- ・学級の全員が地域の「祭り」に参加したという共通の体験をしているが、振り返る活動で、気持ちの掘り起こしが不足であったため、体験が十分に生かされなかった。
- ・授業の中に体験活動を取り入れたことは、地域の文化を身近にとらえ有効であった。

② 郷土を生かした指導の工夫について

- ・地域の行事や郷土芸能を受け継いで、長い間かかわってこられたゲストティーチャーの話は効果的で、授業のねらいに適した活用ができた。
- ・郷土に根付いている、ゲストティーチャーのお話を資料として活用していきたい。

◇研究の成果と今後の課題

研究主題「一人一人の児童の心に響く道徳授業」を目指して4つの分科会を構成し、具体的な授業実践を通して研究をすすめてきた。その結果、各分科会ごとに次の点が明らかになった。

1 研究の成果

○第1分科会

- ・展開後段で書くという表現活動を取り入れたことにより、児童は集中して自己を見つめ直すことができ、その一人一人の感じ方・考え方を個別指導につなげることができた。
- ・道徳の授業内容を保護者に知らせたり、授業に参加してもらったりすることは、自分らしい生き方を育むうえで有効であることがわかった。

○第2分科会

- ・体験を生かした授業は、児童が心をゆさぶられ、主体的に考え、意欲的に取り組むことに効果的であることがわかった。
- ・資料の活用や開発、役割演技やT.T.による話し合い活動の工夫が、児童の考えをより深めることに有効であることがわかった。

○第3分科会

- ・授業に体験活動を生かすことで、より多くの児童の反応を引き出すことができることがわかった。
- ・他教科での体験活動と道徳の授業を関連させることにより、道徳的価値をいっそう深められることがわかった。

○第4分科会

- ・「各教科・領域との関連図」を作成し、年間の見通しをもって郷土に目を向けられるよう計画したことで、授業の中に体験を有効に生かすことができ、価値の深まりがあった。
- ・地域で実際に見つけた人材や素材を教材化したことで、家庭・地域の協力を得ることができ、授業の中だけでなく事前事後の指導にも郷土を積極的に生かすことができた。

2 今後の課題

○第1分科会

- ・児童の心を動かすのに重要な役割を果たしたゲストティーチャーの参加には、日頃の交流を大切に、学校全体を通して計画的に位置付けていく方法を工夫していきたい。

○第2分科会

- ・様々な体験をより積極的に道徳の授業に生かすために、他教科での体験活動と道徳の時間との関連を指導計画や学習過程の中にしっかりと位置づけていく必要がある。

○第3分科会

- ・児童に生きていることや生命の大切さについて実感させることは難しく、学年の発達段階に応じて生命尊重の道徳的価値を教えることが必要である。

○第4分科会

- ・児童が地域の人とかかわり郷土を愛する心を深めていくためには、道徳授業の事前事後の指導を含めて、家庭や地域との連携をより深めていく方法を工夫していきたい。